

事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
会長：市川修次 副会長：唐澤 稔 幹事：宮下 健 公共イメージ向上委員長：加藤 篤

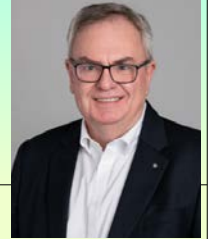


世界に希望を生み出そう

2023-2024 国際ロータリーのテーマ

世界に希望を生み出そう

2023-2024 RI会長
ゴードン R.
マッキナリー
＜スコットランド、
ウェストロージアン＞



第1678回 植樹例会・夜間例会 令和5年11月7日(火)

『植樹例会』

13:30 より「ますみヶ丘平地林」にて

伊那谷森と人を結ぶ協議会 西村一樹様にご指導いただきコナラの苗木 200 本を植樹しました。





『夜間例会』

18:30 より「例会場」にて

■ 点 鐘 18:30

■ ソング 君が代・奉仕の理想・四つのテスト 鈴木一比古ソングリーダー



■ ゲスト・ビジター紹介

- ・支援留学生 ウアドウワンディー パラミー 様
- ・支援留学生 メイ ガクセイ 様



■ 会長談話 市川修次会長



本日は、市民の森への植樹に参加して頂きましてありがとうございました。朝の内は雨で心配されましたが、一転大変良い天気となりまして無事に終わる事ができました。今までロータリー財団の補助金事業として「未来へつなぐ森林づくり」として行われてきましたが、補助金事業は「古着 de ワクチン」を行ったという事で、クラブ員と支援留学生の二人の方 20 名ほどで単独の事業として 200 本という植樹を行って頂きました。

最初に植樹が行われたのは平成 29 年、唐澤敏治会長の時、私は SAA の立場にありましたが、今日と同じ 11 月 7 日に当時の地区の行動目標でありました「1 会員 1 本の植樹を行う」という方針を元に 17 名の参加で 100 本の植樹が行われたのが最初です。17 人で 100 本であったものですから余りにも早すぎて、マスコミの人達も初めてで場所が判らずに遅れたものですから、植樹を途中で止めて待ってもらった等、バタバタした事を覚えています。その翌年は植林が行われませんでした。令和元年より補助金事業として行われるようになり、それ以来昨年まで 5 回行われ、今回 6 回目として延べ約 290 名の参加で 1700 本の植樹が行われたという事になります。

日本は国土の約 7 割が森林で占められているそうですが、この面積は過去 50 年間変わっていないとの事です。何ら問題がないように思えますが決してそういう事ではなくて、日本で使用されている木材は海外からの輸入に頼っており、その 70%が外材という事で、日本に輸入される木材の為にアマゾンを始めとする熱帯地方では大規模に伐採されてしまう、という事が起こっているそうです。その為に日本の森林は伐採されず、今まで植樹された人工林は伐採期を多くが過ぎてしまっているとの事です。日本が外国産に頼る理由は、生産性の悪さと、外国産は、種類が多く価格も安い、そんな事が大きな理由となっている訳ですが。最近、熊が人里などに出没し人への被害が大きな問題となっています。森が使用されずに荒れている事も考えると、来年は枝打ちもと熊谷会長エレクトも話をされていましたが、植樹と一緒に使用するという事もこれから考える時期にきているように思います。

■ 慶 祝

11月誕生祝い

- ・杉本徳治会員
- ・小川貴子会員
- ・田中真人会員
- ・伊澤和男会員
- ・唐澤千明会員



■ 幹事報告 宮下健幹事

幹事報告は別紙をご覧ください。

■ 理事会報告 宮下健幹事

1. 新会員の推薦について
2. 年末家族例会の招待者について
3. 「モロッコ地震」及び「ハワイマウイ島火災」に対する支援金について
4. 11月の行事予定とメイクアップ扱いについて
5. その他



■ 委員会報告

・10月24日（火）会員増強委員会の報告 池上幸平会員増強・プログラム委員長



10月24日火曜日に青龍会場で会員増強委員会、新入会員歓迎会と、会員増強についての勉強会を、夕方6時30分から行いました。宮下幹事、馬場副委員長、唐澤（千）委員、新入会員の小川さんと私、池田ガバナー補佐の6名で行いました。会長が欠席でしたので急遽池田ガバナー補佐にお願い致しましたところ、快く参加して頂き、「ロータリーと会員増強」をテーマに池田ガバナー補佐の思いをお話いただき、硬い難しい時間をクリアして懇親会へと移って行きました。会員増強を含めての2次会も設営してありましたので、マイクを片手に委員会活動を夜遅くまで行いました。

・10月30日（月）第1回I.M.実行委員会の報告 宮下健幹事



10月30日（月）JA フラワーパレスにて、18時半よりI.M. 実行委員会を開催。

【協議事項】

- ① 当日までの実施スケジュールについて確認。
- ② I.M. テーマについて協議した結果、地区テーマでもある「手をつなぎ行動するロータリーの喜びを発信しよう！」に決定。
- ③ プログラムの骨子について協議した結果、三部構成とし第一部本会議、第二部記念講演、第三部懇親会とし内容については引続き協議中。
プログラムについては今月中に纏め上げ、来る12月26日、全体会議に向け準備を進める。

・11月4日（土）伊那西IAC留学生交流会の報告 井上修青少年奉仕委員長



令和5年11月4日「第21回信州大学留学生との交流会」が、伊那西高等学校IAC主催で同校で行われました。参加者は44名、近年稀にみる参加人数となりました。伊那西高等学校IAC9名・顧問2名、伊那中央RCより宮下幹事・唐澤国際奉仕委員長・宮原青少年奉仕副委員長・小川委員・澁谷委員・井上の6名、留学生11名（バングラデシュ、スリランカ、韓国、ヨルダン、ナイジェリア、4カ国11名）、茅野RCより2名、

東海大諏訪高校の IAC 生 11 名・顧問 3 名（内 2 名 ALT）の内訳です。スケジュールは 9 時から 16 時まで、別紙の予定で進みましたが、各高校の学校紹介、留学生の参加国の紹介等々、質問が相次ぎ一時間オーバーとなりました。ナイジェリアとヨルダンの留学生は初めての参加でした。留学生と高校生と一緒に踊り出す場面もあり、何時になく交流が盛り上がりました。昼食は手巻き寿司。留学生は、初めて食べたという方が多く、日本の独特の食文化を楽しんで頂けたと思います。

※バングラデシュ、スリランカ、韓国、ヨルダン、ナイジェリアの人達と会話をする事は、日本の高校生の日常にはないと思います。今日は十分時間を取って話が出来ました。遠い異国のニュースが、あ！知ってる、今日の留学生の方の国だ！とそう思えるのが国際化の一步だと思えます。今日の参加者は、母国に帰って国のリーダーになる人物達です。高校生にとっては望外の経験。この小さな縁を生かして欲しい。これからの世界、今まで以上に世界は狭く近くなります。国境や国を論じている時代ではありません。真の国際人とは英語が喋れる事ではなく、自分の国の地理、歴史、伝統文化、芸術、音楽、等を言える事です。そんな意味での留学生交流会、当クラブと 2600 地区の支援により実現する事が出来ました。心より感謝申し上げます。

※特に印象的だったのは、スリランカの留学生が、日本を救った人として、ジャニウス・リチャード・ジャヤワルダナ氏をあげて、日本人には覚えておいて欲しいと訴えておられた事です。1951 年のサンフランシスコ講和条約で日本の分割統治が議題になった時に、反対演説を行い満場の拍手喝采を浴びたようです。

＝別添の「留学生交流会」の詳細をご覧ください＝

・11月5日（日）伊那中央RC・伊那RC合同ゴルフコンペの報告 橋爪麻人ゴルフ部長



一昨日 5 日（日）の早朝から晴ヶ峰カントリー倶楽部にて、伊那中央 RC10 名、伊那 RC10 名の 20 名 5 組でゴルフコンペを行いました。

意外とこだわってしまう団体戦は伊那 RC の勝利となりましたが、みんなが真剣勝負故に親睦もぐっと深まりました。

最後は最年長であり、同時に行った第 4 回コンペでベスグロ優勝の矢島さんの万歳三唱「伊那 RC 優勝おめでとうございます。伊那中央 RC 準優勝おめでとうございます。」の挨拶でしめて頂き、いい交流コンペになりました。

・「ロータリーの友」11月号紹介 平澤理ロータリー情報委員



11 月号ロータリーの友の紹介をさせていただきます。

横組み 4 頁からは RI 会長のメッセージ「平和への道のり」として、『今月、ロータリーは中東と北アフリカ地域の平和構築を支援する新たな一步として、RI と第 2420 地区（トルコ）は、トルコ・バチエシエヒシュ大学とパートナーシップを結んで、新たに誕生するロータリー平和センターの調印式を行う。この新しいロータリー平和センターは、中東と北アフリカにおける平和構築の取り組みを専門とするフェローのために、平和と開発研究における 1 年間の専門能力開発修了証を提供する。

平和とは粘り強く実践していくものであり、希望が根付くための土壌であるが、あらゆる旅路と同じように一歩ずつ進んでいく必要がある。』という内容が載っています。

さて、今月はロータリー財団月間です。

8 頁からは、グローバル補助金申請ガイドが載っています。グローバル補助金とは、ロータリーの 7 つの重点分野で、①平和構築と紛争予防 ②疾病予防と治療 ③水と衛生 ④母子の健康 ⑤基本的教育と識字率向上 ⑥地域社会の経済発展 ⑦環境 のいずれかに該当し、持続可能かつ測定可能な成果をもたらす国際的活動を支援する補助金であるという内容です。

10 頁からは、グローバル補助金で行われた各 RC の事業内容が載っています。

18 頁からは、11 月 5 日を含む 1 週間は、インターアクト週間である。インターアクターの声を高める 4 つの方法が掲載されています。参考にして下さい。

縦組み 4 頁には、NPO 法人の国連難民高等弁務官事務所協会職員である中村恵氏の講演要旨が掲載されています。国連難民高等弁務官事務所の上司、そして財団奨学生の先輩「緒方貞子さん」と題し、緒方さんがロータリーの精神にじかに触れ、大きな刺激を受け、超我の奉仕という言葉がその後の人生の指針になっていったことが、財団奨学生の後輩であった私には体感できた。という内容です。一読して下さい。

■ ニコニコボックス

- ◆市川修次 10月22日の「古着 de ワクチン」開催時にはご協力ありがとうございました。
又、本日は足元の悪い中での植林作業ありがとうございました。
今年度予定される行事が一步一步進んでおり、皆様に感謝致します。
- ◆宮下健 天候が回復し無事、植樹作業が出来て良かったです。
週末、高校サッカー新人戦で長男の応援に行きまして。息子の彼女を同伴で連れて行きましたが、市川満貞さんに久しぶりに出逢いました。若い女の子連れで変な勘違いをされてしまったのでは・・・と思いましたが、皆様にくれぐれも宜しく！！との事です。
- ◆松田靖宏 植樹お疲れ様でした。
パラミー様、メイ様、お越しいただきありがとうございます。
植樹・夜間例会、お楽しみください。
- ◆池田幸平 「古着deワクチン」のイベント無事終了しました。皆さん本当にありがとうございました。
今日、植樹奉仕のおかげでクリタケが採れました。
私の植えた苗木はしっかり育つでしょう。井上さんのは大丈夫？
- ◆井上修 お陰様で「留学生交流会」無事終わられました。盛況の44名。ナイジェリア、ヨルダンからの初参加ありで留学生11名。伊那西IAC、東海大諏訪IACで20名という参加でした。
- ◆池上幸平 雨上がりの植林作業、ご苦労様でした。参加できず申し訳ございませんでした。
38年ぶり、アレのアレでバンザイ！バンザイ！嬉しい事、楽しい事は皆で分かち合いましょ
う。岡田監督バンザイ！！
10/24 第3回GC、栄えある(優勝)は私、池上でございます。日頃の精進の賜物です。
ありがとうございました。本当はハンデのおかげです。
- ◆池上幸平・唐澤千明・平澤理 先日のゴルフコンペで優勝・準優勝・3位でした。

■ 出席報告

会員数45名 出席免除会員5名 長欠会員1名 本日出席率100%
前回出席率 修正なし

■ 点 鐘

19:10

■ 親睦会 進行：親睦活動・友好委員会

- ・挨拶 橋爪麻人親睦活動・友好委員長
- ・挨拶 市川修次会長
- ・乾杯 池上幸平会員
- ・ソング「手に手つないで」 太田明良ソングリーダー
- ・万歳 澁谷恵二会員



次回例会

11月11日(土)・12日(日)「2023-2024年度 地区大会」
会場／松本市ホテルブエナビスタ、キッセイ文化ホール

11月28日(火) 点鐘／12:30 場所／海老屋料理店
・クラブフォーラム「ロータリー財団委員会」
・例会終了後：理事会

第21回伊那西高校 I A C 信州大学留学生との交流会

期日 令和5年11月4日(土)

会場 伊那西高等学校 第1会議室
(伊那市西春近 4851 番地 TEL0265-72-4091)

日程

9:00~	受付 留学生講師出迎え
9:20~	開会行事
◎ 9:35~	自己紹介・アイスブレイク
9:50~	伊那西高校学校紹介
10:05~	東海大学附属諏訪高校紹介・日本の紹介
10:20~	休憩
10:30~	留学生 母国紹介
12:00~	昼食交流
12:50~	母国の挨拶言語学習 (各国15単語ずつ)
	休憩
14:30~	閉会行事、写真撮影
15:10	留学生講師お見送り
	片付け
~16:00	終了予定





ジュニウス・リチャード・ジャヤワルダナ スリランカの第2代大統領

ジャヤワルダナ氏の演説 1951年サンフランシスコ講和条約場においてアジアの諸国民はなぜ、日本が自由になることを切望しているのか。それは、アジア諸国民と日本との長きにわたる結びつきのゆえであり、また、植民地として従属的地位にあったアジア諸国民が、日本に対して抱いている深い尊敬のゆえである。往時、アジア諸民族の中で、日本のみが強力かつ自由であって、アジア諸国民は日本を守護者かつ友邦として、仰ぎ見た。(中略) ビルマ・インド・インドネシアの指導者たちの中には、最愛の祖国が解放されることを希望して、日本に協力した者がいたのである。

—J・R・ジャヤワルダナ 1951年9月6日

また、閣僚・首相・大統領としてたびたび訪日、昭和天皇との会見も2回以上行われている。(中略) 1989年、昭和天皇の大喪の礼に本人の希望により夫人とともにプレマダーサ大統領に代わって参列。(中略) 死去に際し献眼、角膜提供。「右目はスリランカ人に、左目は日本人に」との遺言通り、左目の角膜は長野県の女性に移植された。

本人の遺言によりスリランカ国内には墓も存在しないが、日本国内にはジャヤワルダナを顕彰した石碑や銅像などが複数個所に存在する。

雲龍寺 - 東京都八王子市 高德院 - 神奈川県鎌倉市

善光寺 - 長野県長野市 明通寺 - 愛知県愛西市

1951年9月6日、セイロン代表の蔵相として参加したサンフランシスコ講和会議において「憎悪は憎悪によって止むことはなく、慈愛によって止む」という法句経の一節を引用して、日本に対する戦時賠償請求を放棄する演説を行った。

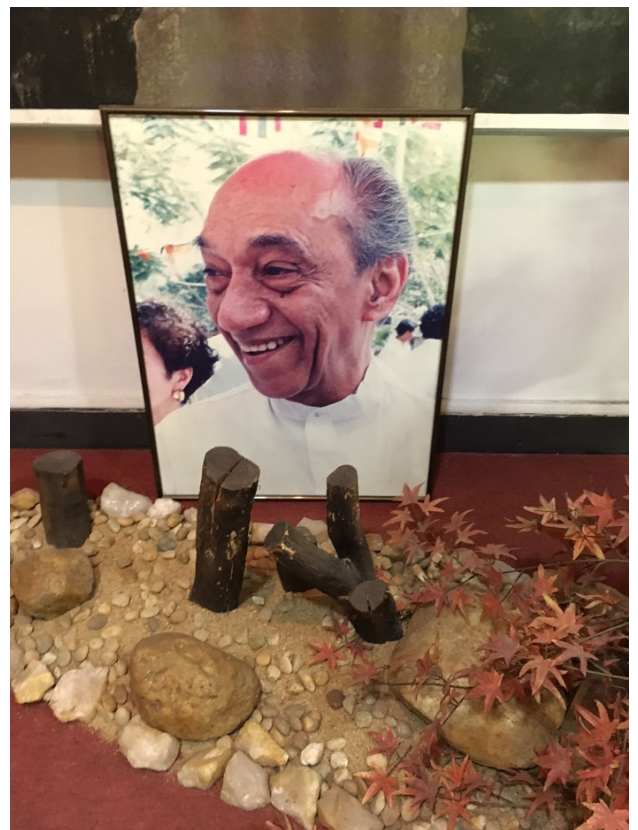
※法句経(ほっくぎょう)、ダンマパダ(巴:Dhammapada)は、仏典の一つで、仏教の教えを短い詩節の形(アフォリズム)で伝えた、韻文のみからなる経典である

ジャヤワルダナの演説が終わると、賞賛の声の嵐で会場の窓のガラスが割れるほどであったと『サンフランシスコ・ニュース』は報じている。また『サンフランシスコ・エグザミナー』紙は「褐色のハンサムな外交官が、セイロン島よりやって来て、世に忘れ去られようとしていた国家間の礼節と寛容を声高く説き、鋭い理論でソ連の策略を打ち破った」と評した。

1951年 サンフランシスコ講和条約 調印 吉田茂氏



ジュニウス・リチャード・ジャヤワルダナ氏



言葉の壁越えて親睦

IAC 伊那西高 信大留学生と交流会

社会奉仕や国際理解のために活動する伊那西高校インターアクトクラブ（IAC）は4日、伊那市西春近の同校で信州大学農学部留学生との交流会を開いた。伊那中央ロータリークラブの支援を受けて毎年行っている取り組みで21回目。ゲスト校として参加した東海大学付属諏訪高校（茅野市）IACの生徒も交えて約40人が集まり、互いの国や文化、母国語を紹介するなどして親睦を深めた。

（川上敏明）

留学生はバングラデシュ、韓国、スリランカ、ナイジェリア、ヨルダンの計11人、過去最多の参加となった。自己



伊那西高校の生徒に手順を聞きながら手巻きずしを楽しむ留学生

紹介の後、ジェスチャーゲームなどを行い、徐々に生徒たちと打ち解けた。留学生の母国紹介では各国の有名観光地やおすすめの食べ物、民族衣装などの写真が詳しい解説と共にスクリーン

に映し出され、生徒たちも興味深く見入っていた。昼食は日本ならではの「手巻きずし」。留学生たちは生徒らに作り方を聞きながら慣れない手つきですしを巻き、新鮮な刺身の味わいに「おいしい」と喜んでいました。

3年生から引き継いだばかりという伊那西高IAC会長で2年の土屋優奈さん（16）は「言葉の壁はあってもみんな楽しそうに交流できたので

良かった。留学生の母国について事前学習をしていたが、それ以上のことを知ることができ、とても面白く刺激的だった」と話していた。

令和5年11月3日 伊那西高等学校IACクラブの主催の信州大学留学生交流会が伊那西高校で開催された。参加者は44名。留学生は11名（バングラデシュ スリランカ 韓国、ヨルダン、ナイジェリア）、伊那西高校IAC・9名（活動を卒業した3年生も4名参加手伝いをしてくださいました）、顧問2名、伊那中央RC・6名、東海大学諏訪高校IAC・11名、顧問1名、ALT（外国語教師 オーストラリア メキシコ）2名、茅野RC・2名と過去最高の人数の交流会になりました。圧巻だったのは、伊那西IACの生徒の提案で昼食を「手巻きずし」にした事です。最初はおそろおそろでしたが、慣れてきて皆初めての経験に喚声を上げながらの食事風景になりました。全てのスケジュールが大盛り上がるうちに終了し、参加された一人、一人が主役であったという感想を持って進められたと思います。伊那中央RCと2600地区の支援に深く感謝申し上げます。

信濃毎日新聞

留学生の自国の紹介・コーナー、ナイジェリアの留学生・シュエエズオキフル君とダンス披露の東海大学諏訪高校の生徒。今回はこんなサプライズの加えて、力が入ったパワーポイントの紹介が相次ぎ、質問も沢山出て一時間オーバーになるような盛況でした。留学生諸君の力作に感謝です。

5カ国の留学生が来校 教わる異文化



ナイジェリアからの留学生と一緒にダンスをする東海大諏訪高の生徒（左奥）

伊那西高校（伊那市）と東海大諏訪高校（茅野市）の生徒19人が4日、信州大に留学している5カ国の留学生と伊那西高で交流した。伊那、茅野両市にあるロータリークラブが若者の国際交流を進めようという企画。生徒たちは留学生とのやりとりを通じて異国の文化に触れた。

学生は、韓国、バングラデシュ、スリランカ、ナイジェリア、ヨルダンの5カ国の男女11人。それぞれスライドで自国を紹介し、ナイジェリア出身の男性シュエエフ・ズオキフルさん（39）はキリスト教やイスラム教をはじめ、「宗教がたくさんあるのでそれに関わるイベントも多い」と説明。農学部で学ぶ韓国出身の男性パク・ウジンさんは日本の農業は韓国より優れている」と話した。

伊那西高2年の土屋優奈さん（16）は「いろいろな国の知らなかったことを聞けて面白かった。いい経験になった」と喜んでいました。

伊那西と東海大諏訪の高校生19人 伊那で交流